

第6学年 国語科学習指導案

令和4年 11月 24日(木) 5校時

1組 計31人

指導者 小山 薫

1 単元名・教材名 書き方を工夫して、経験と考えを伝えよう 「大切にしたい言葉」

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本学級の児童は、これまでに、俳句や短歌の学習をし、限られた字数の中で自分の思いや伝えたいことにぴったり合う言葉を選ぶ経験をしている。本単元では、その経験を発展させ、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く力を育成することが目的である。

(2) 児童の実態

本学級では、これまで国語の学習の中で提案文を書いたり、筆者の考えに対する自分の考えを書いたりする活動を行ってきた。また、国語の学習以外でも、日記や社会科で事象を説明する文章を書くなど、自分の考えや経験したことを書く活動を多く行っている。その中での課題が以下に挙げられる。

- どこにどんな内容を書けば読み手に伝えたいことが伝わるのかを意識して文章構成を行うことが難しい。
- 主述のねじれや、主語のない文章を書くことが度々見られる。主述の整った文章への意識が薄い。
- 「楽しい」「うれしい」などの言葉で完結しており、その時の気持ちや状況を豊かに表現することができない。

読み手に自分の伝えたいことを伝えるためには、文章構成を意識し、主述の整った文章を書く力、思ったことや感じたことを豊かに表現する力が必要である。そのため、この3点について重点的に指導していく必要がある。

(3) 教材の特性

教材文では、座右の銘を選び、それを自分の経験と結び付けて書かれている。具体的には、自分のものの見方が変わった場面と、座右の銘として大切にしたい言葉を結び付け、自分が感じたことや考えたことにふさわしい言葉を選んで書かれている。

教材文は次のような構成で書かれている。

初め	座右の銘にしたい言葉とその簡単な説明。
中	選んだ座右の銘に結び付く経験と基になったインタビュー記事との関わり。
終わり	今後、座右の銘を踏まえ、どのように生活していくか。

教材文では、800字程度という字数を設定している。字数を設定することは、構成を意識して書く力の向上につながる。また、下書きをした後に推敲をする活動が組まれている。ここでは、推敲についての視点が挙げられている。

- ア 読みにくいところや、分かりにくいところはないか。
- イ 詳しく書くとよいところと、簡単に書くとよいところはどこか。

ウ 考えたことや感じたことにぴったりの言葉かどうか。

この教材を通して、読みやすい文章を書く力、伝えたいことを焦点化して書く力、考えたことや感じたことにぴったりの言葉を選び抜く力の3点を主に学ばせることができる。

(4) 指導に当たって

今回は卒業文集に掲載する文章を書くという目的で学習していきたい。ここで重要になるのは、目的意識である。卒業文集を通して、自分の経験を意味付ける活動は、中学に進学する前の一区切りとして重要な意味をもつ。生きるための知恵である座右の銘を文章と共に残し、将来の自分が生きる時の礎となるという目的意識を持たせて学習に取り組ませたい。そこで、次の点に留意して指導を展開していく。

ア 学習課題を設定し、学習の見通しをもたせる場面。

有名なスポーツ選手の座右の銘と関連するエピソードを紹介し、卒業文集に掲載するという目的を示す。そして各自が集めてきた言葉について紹介し合い、学習計画を立てて単元の大まかな流れを確かめる。

イ 文章の構成や書き方を理解させ、定着を図る場面。

教科書に掲載されている作文を読ませ、どのような文章構成になっていて、どの部分を詳しく書いているかに気付かせる。その後、全国学力・学習状況調査の調査問題を使い、構成の工夫を捉える演習をさせる。用いる調査問題は、令和4年度大問³の設問1である。この設問は、文章構成上の工夫を指摘する選択式の問題である（頭括型）。また、令和3年度大問³設問1も使うことができる（双活型）。これらの問題を通して文章構成の仕方について理解させたい。また、文章構成を捉えさせることで、次の構成メモを書く活動につなげられるようにしたい。

ウ 構成メモを作り、下書きをする場面。

教科書の掲載文の構成をもとに、具体的な体験の部分を詳しく書けるように構成メモを作っていく。その際に、選んだ座右の銘を結びつく経験や、元になった情報について想起させ、詳しく書けるようにしたい。構成メモは、ロイロノートで書かせる。そうすることで、順番の入れ替えや、加筆や修正をしやすくしたい。

エ 下書きを読み返し、推敲する場面。

教科書の下書きを基に、心情を表す言葉をどのように書けばよいかについての問題意識をもたせる。その後、読み手に思いが伝わるよう書き方（思ったことを具体的に書く、気持ちが表れる行動を書く、比喩表現を用いる、オノマトペを使う、慣用句を使う）を学ばせる。推敲では、共同推敲を取り入れ、友達からの助言を基に実際に推敲する活動を行っていく。また、授業の最後に推敲前と推敲後の文章を読み比べ、よくなったところについて振り返りをさせたい。これは令和4年度全国学力・学習状況調査大問³2の自分の文章のよさを振り返る演習につながる。また、できるようになったことを明確にすることで学びに向かう姿勢にもつながると考える。

オ 構成メモや推敲した下書きをもとに清書する場面。

前時までに学習してきたことを生かして清書をさせる。その際、1文が長すぎて読みにくいところがないか、主述のねじれがないかなど表記的な点にも気を付けて清書をするように指導したい。その際に長い文章を分けて書いたり、主述が整った文章に書きなおしたりする演習（平成31年度全国学力・学習状況調査大問¹4(2)、平成30年度国語A大問⁵）を行ってから実際の推敲、清書の活動に入ること、より具体的に課題意識を持って取り組めるようにする。

カ 清書した文章を互いに読み合い、振り返る場面。

全国学力・学習問題（令和4年度大問³）を用いて、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができるかどうか」という共有に関する指導につなげる。

完成した作文を互いに読み合い、感想を伝え合う。また、単元の学習の振り返りを行い、学んだことを生かそうという気持ちにつなげる。

3 単元の指導目標

- (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知識・技能 (1) オ]
- (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思考力・判断力・表現力等B (1) ア]
- (3) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思考力・判断力・表現力等B (1) ウ]
- (4) 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。[思考力・判断力・表現力等B (1) カ]
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで思いや考えを伝え合おうとすることができる。[学びに向かう力・人間性等]

4 単元の評価規準

- (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。【知識・技能】
- (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選択し、伝えたいことを明確にして書いている。【思考・判断・表現】
- (3) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【思考・判断・表現】
- (4) 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。【思考・判断・表現】
- (5) 自分の考えが伝わるように書き表し方を粘り強く吟味し、見通しをもって大切にしたい言葉についての文章を書こうとする。【主体的に学習に取り組む態度】

5 指導計画 (全6時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点
一次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 作文を書く目的を知り、学習計画を立てよう。 </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 有名なスポーツ選手の言葉を読み、座右の銘について理解する。 2 卒業文集に載せるといふ目的を知り、各自で集めてきた座右の銘にしたい言葉を出し合う。 3 これまでの書く活動を振り返ったアンケート結果から、学習課題を設定し、学習計画を立て、今後の見通しをもつ。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 読み手に自分の思いが伝わる座右の銘作文を書こう。 </div>	〈教材・教具〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自が用意した座右の銘メモ ・ 事前にとったアンケートの結果 ○ スムーズに本単元に入れるように、予め学級文庫に格言集を置いたり、新聞記事やテレビで見聞きした言葉をメモにとらせたりして、身の回りの言葉を意識して生活できるようにしておく。 ○ 日記や夏休みの作文などの書く活動の中で自分が課題に感じていることについて事前にアンケートをとっておき、課題意識をもって単元に入れるようにする。

	2	<div data-bbox="336 136 858 253" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教科書のモデル文から、文章構成を捉え、構成メモを作ろう。</p> </div> <p>1 教科書に掲載されたモデル文を読み、文章構成と書き方について捉える。</p> <p>○ どのような構成になっているか調べる。</p> <p>〈初め〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ座右の銘。 ・ 座右の銘についての説明。 <p>〈中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座右の銘に結び付く経験。 <p>〈終わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、座右の銘を大切にしながら、どのように生活していくか。 <p>2 全国学力・学習状況調査の調査問題を使い、構成の工夫を捉える演習をさせる。</p> <p>3 ロイロノートで構成メモを作成する。</p>	<p>〈教材・教具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書のモデル文 ・ 文章構成の演習問題（全国学力・学習状況調査より）ワークシート① ・ ロイロノート <p>○ 教科書のモデル文を段落分けし、初め、中、終わりにどのような内容が書かれているのかを読み取る。</p> <p>○ 選んだ座右の銘に結び付く経験を中心に書かれていることに気付かせる。</p> <p>○ 頭括型と、双活型の2種類の問題に触れることで、様々な文章構成の工夫ができることに気付かせる。</p>
二次	3	<div data-bbox="336 1117 858 1234" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>構成メモをもとに、下書きをしよう。</p> </div> <p>1 構成メモをもとに下書きをする。</p> <div data-bbox="336 1335 775 1491" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初め…100字程度 ・ 中…400字程度 ・ 終わり…100字程度 </div>	<p>〈教材・教具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロイロノート ・ 下書きを書く用紙ワークシート② <p>○ 初め、中、終わりそれぞれの文字数の配分についても意識させる。</p>
	4 (本時)	<div data-bbox="336 1554 858 1671" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>気持ちをくわしく書くにはどうすればよいのだろうか。</p> </div> <p>1 教科書のモデル文の下書きと清書を読み比べ、読み手に思いが伝わる心情の書き表し方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思ったことを具体的に書く。 ・ 気持ちを行動で表している。 ・ 比喩表現を使う。 ・ オノマトペを使う。 	<p>〈教材・教具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下書き ・ 教科書のモデル文の下書きと清書ワークシート③ ・ ロイロノート <p>○ モデル文から発見できるもの以外のポイントも示す。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 慣用句を使う。 <p>2 自分の下書きの推敲作業を行う。</p> <p>3 書いたものをグループで共有し、感想を伝え合う。</p> <p>4 本時の振り返りを行い、次の活動につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて推敲箇所を示しておく。 推敲の表現で困っている児童は教師と一緒に推敲を行う。 相互評価することで、様々な表現方法について知ることができるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>下書きを読み合って推敲し、清書しよう。</p> </div> <p>1 前時に学習した心情の書き表し方を確認する。</p> <p>2 演習プリントを使い、どのように書き換えたらいいかを考える。</p> <p>3 グループで友達の書いた文章を読み合い、助言し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 視点に沿って色分けして線を引く。 読みにくいところ…黄色 詳しく書くところや簡単に書くところ…ピンク 言葉選び…緑 <p>4 友達の助言をもとに推敲する。</p> <p>5 清書する。</p>	<p>〈教材・教具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 下書き ロイロノート 推敲の演習プリント（全国学力・学習状況調査H3 1. 大問¹4（2）、H3 0. 大問⁵）ワークシート④ <ul style="list-style-type: none"> 実際に推敲する活動を行うことで整った文章の感覚をもって次の活動に入れるようにする。 表記的な間違いなどにも注意しながら清書をさせる。 ロイロノートの共有ノートを使い、3つの視点に基づいて、推敲したほうがいい個所を色分けして線を引き、グループで話し合う。 助言を基に、下書きの横に書き込みや訂正をする。
三次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>書いた文章を読み合い、感想を伝え合おう。</p> </div> <p>1 教科書を基に、感想の内容について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心を動かされた内容や表現について <p>2 ロイロノート上に挙げた友達の文章を読み合い、テキストで感想を記入する。</p> <p>3 書いてもらった感想を読み、単元全体の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「共有」に関する設問を解き、自分や友達の文章のよさに気付く。 	<p>〈教材・教具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 清書した作文 ロイロノート 「共有」に関する演習プリント（全国学力・学習状況調査R4. 大問³）ワークシート⑤ <ul style="list-style-type: none"> 心を動かされるとはどういうことなのか、全体で確認し、具体的なイメージをもてるようにする。 単元を通してできるようになったことや今後に生かしたいことなど視点を示して書かせる。

6 本時（4／6）

(1) 指導目標

- ア 自分の気持ちを的確に表す表現を理解することができる。
- イ 目的や意図に応じて自分の気持ちを詳しく書き直すことができる。
- ウ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。
- エ 自分の文章をよりよくしようと粘り強く取り組もうとする。

(2) 実際

時間	主な学習活動	指導の手立て
5	1 前時の活動を振り返り、本時の目標を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 気持ちをくわしく書くにはどうすればよいのだろうか。 </div>	○ 事前に書いた下書きをもとに、課題意識を持たせ、めあてにつなげる。
	2 学習計画表を確認し、本時への見通しをもつ。	○ 学習計画表を確認することで、本時の学習への見通しをもたせる。
10	3 教科書のモデル文の下書きと清書を読み比べ、詳しく書く方法を学ぶ。 (1) 思ったことを具体的に書く。 (2) 気持ちを行動で表す。 (3) たとえを使う ・ まるで頭をハンマーでなぐられたような… (4) オノマトペを使う ・ がっくりと… (5) 慣用句を使う。 ・ 肩を落とす。	○ モデル文の比較から発見できるもの以外のポイントも示す。 ○ 「残念だ」という気持ちを表すには他にどんな表現があるか考えさせることで、「残念」という気持ちにも違いがあることに気付かせる。
15	4 学んだ方法を使って、自分の下書きの、気持ちを表す部分を詳しく書く。	○ 教科書の巻末「言葉の宝箱」や国語辞典を活用させる。
10	5 推敲した文をグループで読み合い、助言や感想を伝え合う。	○ 推敲した下書きをロイロノートで撮影し、全体で共有することで考えを深めさせる。
5	6 本時で学んだことをまとめ、本時の振り返りをする。	○ 本時の振り返りをするすることで、次時に向かう姿勢をもたせる。

(3) 評価

- ア 自分の気持ちを的確に表す表現を理解している。
- イ 目的や意図に応じて自分の気持ちを詳しく書き直すことができている。
- ウ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができている。
- エ 自分オ文章をよりよくしようと粘り強く取り組もうとしている。